

竹内・渡辺両先生の定年

多年にわたって、本学歴史学科の西洋史講座に、非常勤講師を勤められた、竹内直良先生、渡辺茂先生は、昨年および今年と、あいっいで定年を迎えられた。両先生の今後のご健康とご活躍を願う思い、切なるものがある。

竹内直良先生は、昭和三年東京帝国大学文学部西洋史学科を卒業され、戦前から本学とかかわりを持たれたばかりか、歴史学科に大学院が設置されるにあたって、法政大学文学部教授の本務のかたわら、お力添えを頂くこと大であった、と聞く。ご老年のため辞意を表明されたのは、昭和五十五年秋であり、学部学生に対しては、翌五十六年一月十四日、最終講義を行われた。西洋文化史の名で行われたキリスト教史の最終回であり、コンスタンチヌス帝のキリスト教改宗のくだり、またカトリックと新教との比較論など、いきいきとしたお話の印銘はいまも忘れがたい。平常の授業形式をとられ、めだつた行事も行えずに終つたが、石川の謝辞でしめくり、六十名の聴講者に、深い印銘を与えた。後日、学生代表より、記念品贈呈を行なつた。

先生には、懇請して、昭和五十六年度大学院修士過程の、西洋史特殊講義をお持ち願うことができ、昨五十七年三月をもって、規定により、本学の定年を迎えられるにいたつた。学部のキリスト教史は、幸い、秀村欣二先生という得がたい後継をかちえて、宗立大学にふさわしい、視野の広い宗教教育の一環が続けられていること

は、本学歴史学科が誇り得るところである。

老来、漢籍に親しまれること多くなられたときく竹内先生の、ご加餐を切に願つてやまない。

渡辺茂先生は、昭和十一年東大西洋史学科を卒業され、戦時中をインドネシアにすごされご苦勞を重ねられたのち、昭和二十一年秋の復員後、専修大学教授となられると同時に、本学に国際関係論を講じられ、やがて歴史学科の独立とあわせて、概説また宗教改革時代史に熱心なご講義を展開された。実に四十年に近い歴史学科のご縁を持たれ、近年はまた文部省教科書検定委員としてのご活躍は、たびたび新聞紙上にも報ぜられ、本学定年規定の存在が残念に思われる、お元氣なご教育ぶりを示されてきた。

最終講義として、本昭和五十八年一月十二日、新装成つた本館教室に場所を移し、「歴史的世界の終末」と題する慈味豊かなお話に接することができたのは、私どもの悦びであつた。千葉県九十九里浜に近いおすまいから、三十余年にわたる通勤を繰り返された往時を追懐され、歴史事実という形而下的対象を考察することを本務とされながらも、信仰にめざめられ、歴史をはるかに超える存在を語りかけられた二時間にわたり、卒業生を含む七十名の聴講者は、まったくお話にひきいれられて終つた。歴史的世界の終末にこそ、新しい世界の展望が存するとされたもので、宗派を異にするとはいへ、信仰の力の偉大さに説き及ばれた、本学の雰圍気を体された内容であつた。先生の多年の本務校であられた専修大学文学部でも、披露されることのなかつたお話と承る。感銘の深さをお察し頂きたい。

終つて、石川の謝辞、学生また私ども後輩よりの記念品の贈呈をもつて散会したが、先生には先述のとおり、なお多くの社会的・學術的なお仕事が待ちかまえている。ご自愛のうえ、さらなるご活躍を願わずにはいられない。

歴史学科に多年の貢献があつた両先生を送ることは、残念のきわみであるが、本号論文をもつてご高承のとおり、西洋史専攻課程には、新たに東京都立大学名誉教授椽川一朗先生を専任教授としてお迎えすることができた。豊富なスタッフを誇る非常勤講師の方々ともども、両先生ののこされた学燈を絶やすことなく、新たな前進を期したい、と念じるものである。

(石川澄雄 記)

昭和五十七年度修士論文・卒業論文一覧

△ 修 士 論 文 △

越後・佐渡における曹洞宗の展開
鎌倉期信濃支配について

遠藤 廣昭

— 諏訪社及び諏訪氏の役割を中心に —

小松 寿治

近世前期町方支配の展開と江戸町民

多田 修

奈良・平安初期の南都仏教史考

藤田 かおる

横浜・川崎の都市化と住民

— 一九〇四〜一九一四年を中心として —

保坂 一房

国家仏教成立期の諸問題

御子柴 大介

堀部松太郎評伝

— 地域に生きた岐阜民権家の思想と行動 —
荘園整理令の基礎的研究

横山 真一
吉永 良治

△ 卒 業 論 文 △

幕末期の階級闘争

— 農民一揆の動向 —

義和団の形成とその発展

二・二六事件における天皇と軍隊

漆塗棺を伴う終末期古墳

古墳出土の鏡について

ピューリタン革命におけるレヴェエラーズの位置づけ

宇野 英樹
高野 圭介
島 埜 重信
高野 晃彰
小池 雅典
久松 隆雄

飛鳥・白鳳時代の寺院址の考察

明治六年政変に関する一考察

越後上杉謙信の商業政策

霜月騒動について

藤原鎌足の事績についての一考察

元末の諸反乱についての一考察

近世城下町福島形成

中国近代の農民闘争に関する一考察

連弧文土器

嘉永・安政期の幕政改革

— 特に阿部正弘の諸政策を中心として —

石川 篤
高橋 一郎
尾崎 広子
佐藤 弘子
瀬戸 紀子
大貫 真砂子
関口 信夫
正戸 和宏